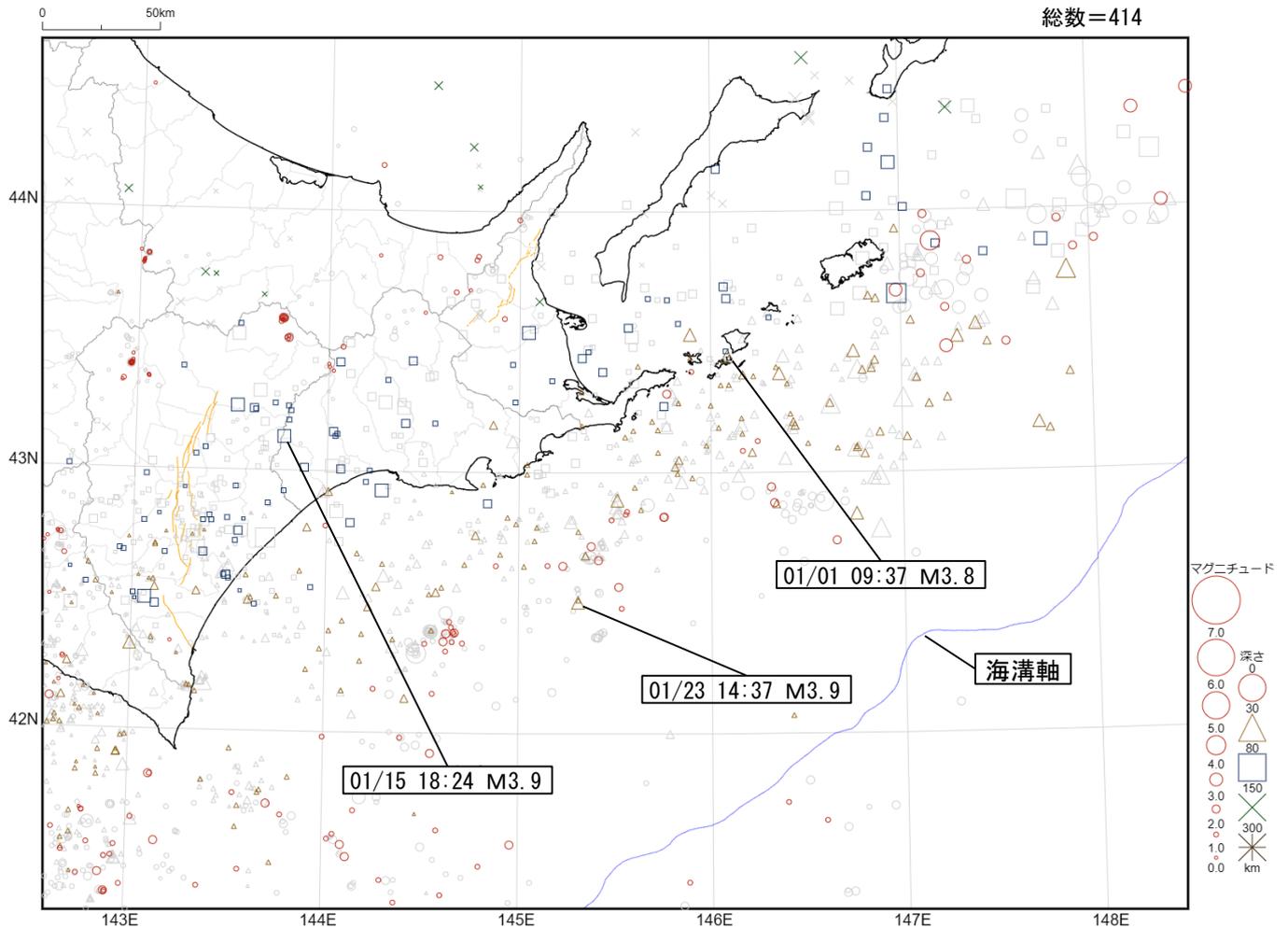


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2025年1月

釧路地方気象台

震央分布図



地震概況（2025年1月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回(先月12月は6回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

1日09時37分、※根室半島南東沖を震源とする地震(M3.8、深さ66km)により、根室市で震度2を観測しました。

「※情報発表時に用いた震央地名は〔国後島付近〕です。」

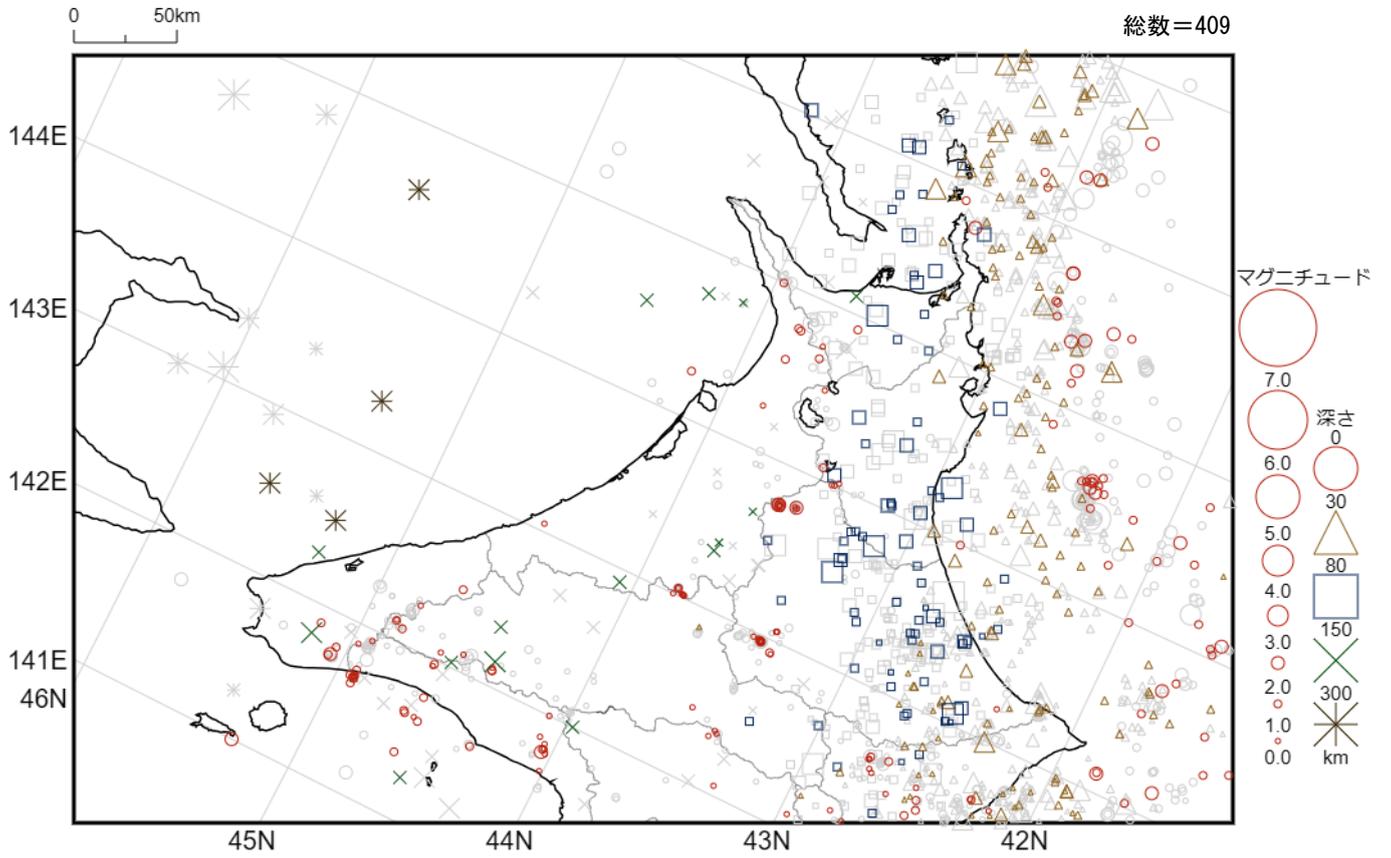
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html

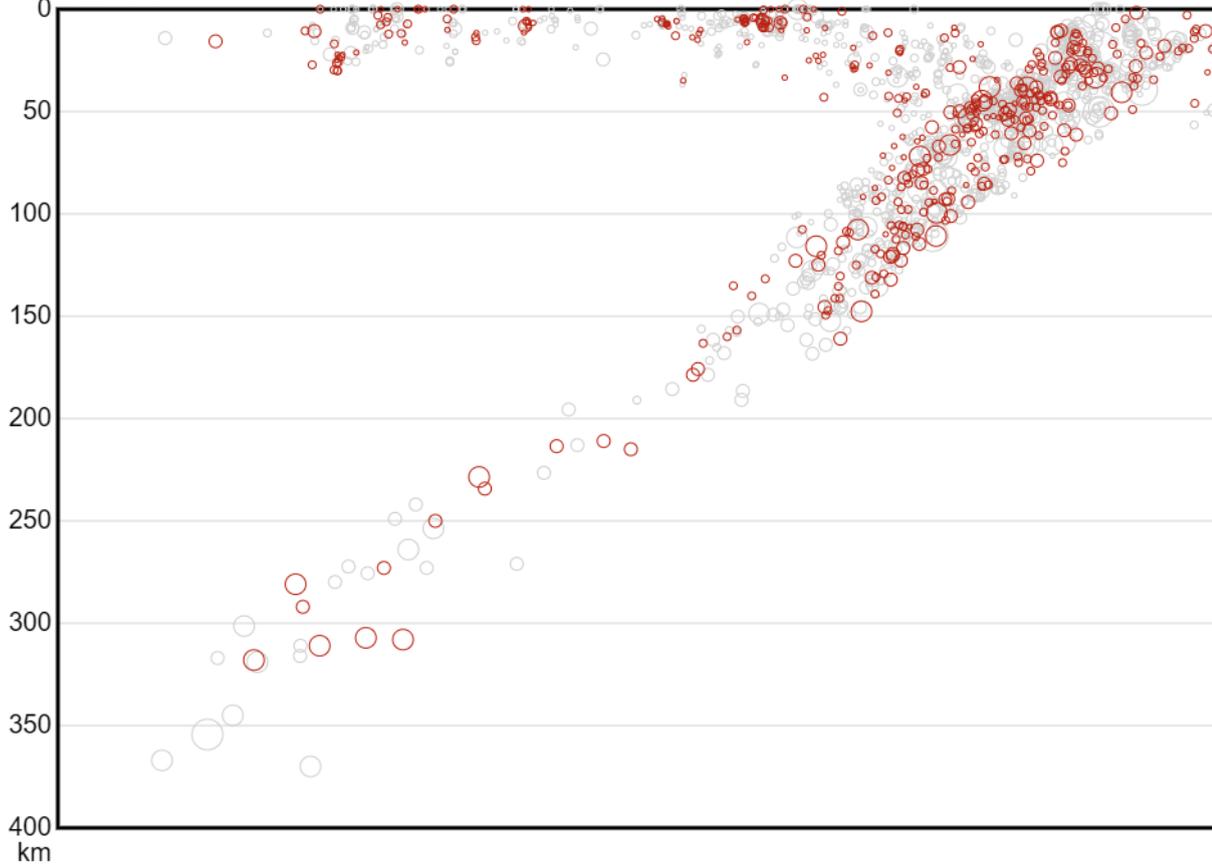
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2025年1月

震央分布図



断面図

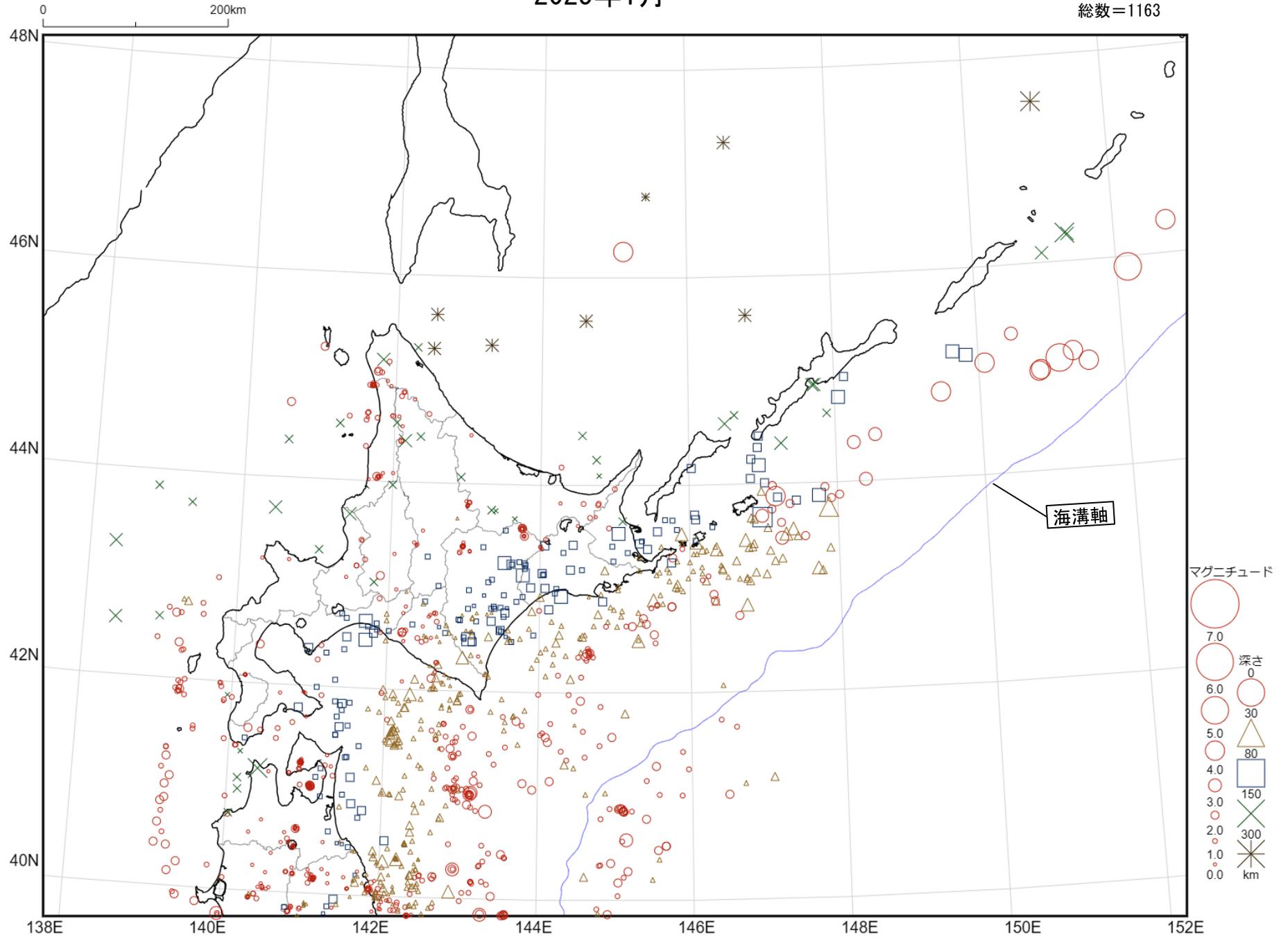


北海道の地震活動図

震央分布図

2025年1月

総数=1163



釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表（2025年1月）

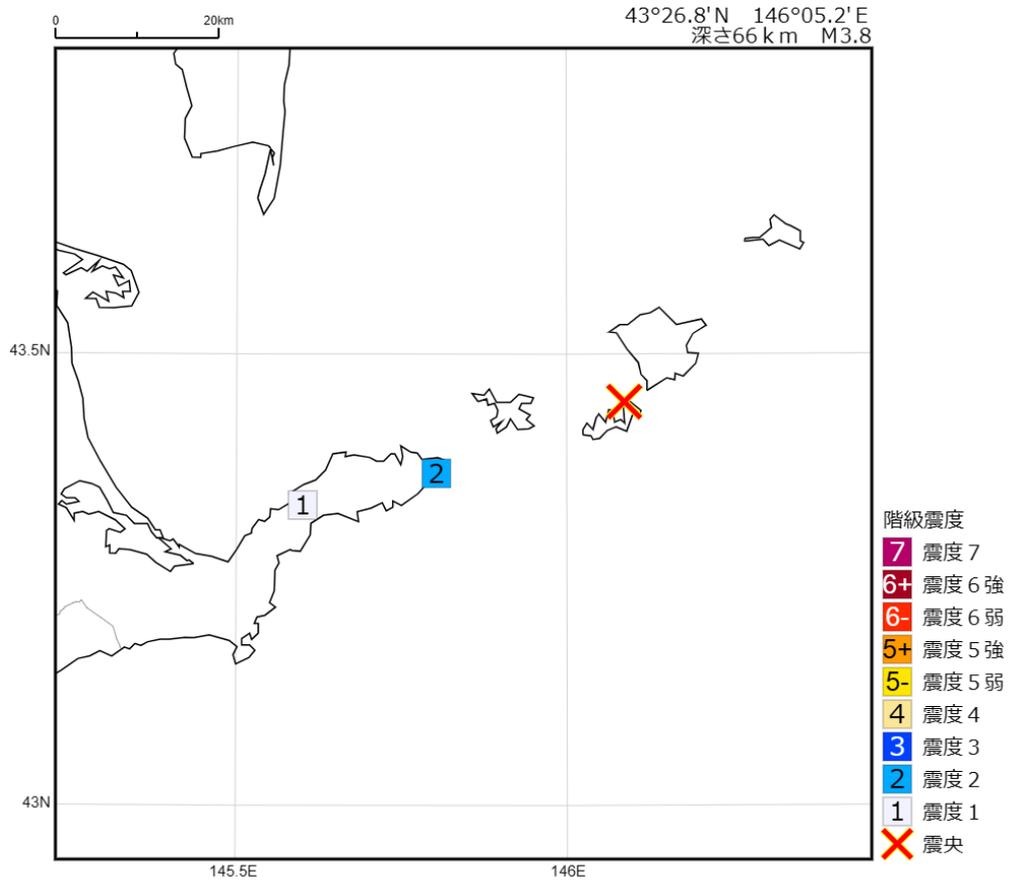
	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2025年 1月 1日 根室地方	09時37分 震度2 震度1	根室半島南東沖 根室市瑠瑠*(15) 根室市牧の内*(06)	43° 26.8' N	146° 05.2' E	66 k m	M3.8
2	2025年 1月15日 十勝地方 釧路地方	18時24分 震度1 震度1	釧路地方中南部 足寄町上螺湾(07) 十勝池田町西1条*(07) 豊頃町茂岩本町*(11) 本別町北2丁目(14) 本別町向陽町*(12) 釧路市阿寒町中央*(09) 釧路市音別町中園*(09) 標茶町塘路*(05) 白糠町西1条*(14)	43° 07.7' N	143° 46.3' E	108 k m	M3.9
3	2025年 1月23日 釧路地方	14時37分 震度1	釧路沖 厚岸町尾幌(08) 浜中町茶内*(09)	42° 30.2' N	145° 18.4' E	33 k m	M3.9

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2025年 1月 1日 09時37分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～異常震域～

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、震源が非常に深い地震（深発地震）の場合、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から離れた場所で揺れを観測することがあります。この現象を「異常震域」と呼びます。

日本周辺では、陸のプレートの下に海洋プレートが沈み込んでいます。この海洋プレートと陸のプレートの間には地震波が減衰しやすい領域があるため、沈み込んだ海洋プレートのかかなり深い場所で地震が発生すると、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通して地震波が伝わる太平洋側で震度が大きくなる場合があります（図1、図2）。

特徴的な震度分布のため「異常震域」と呼ばれますが、発生した地震自体が異常というわけではありません。なお、異常震域を生じるような深発地震でも、地震の規模が大きくなれば強い揺れによる被害を生じることがあります。

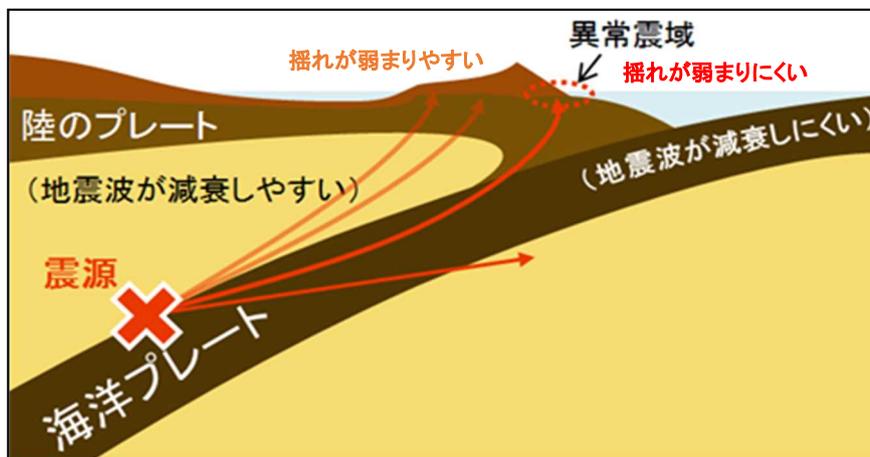
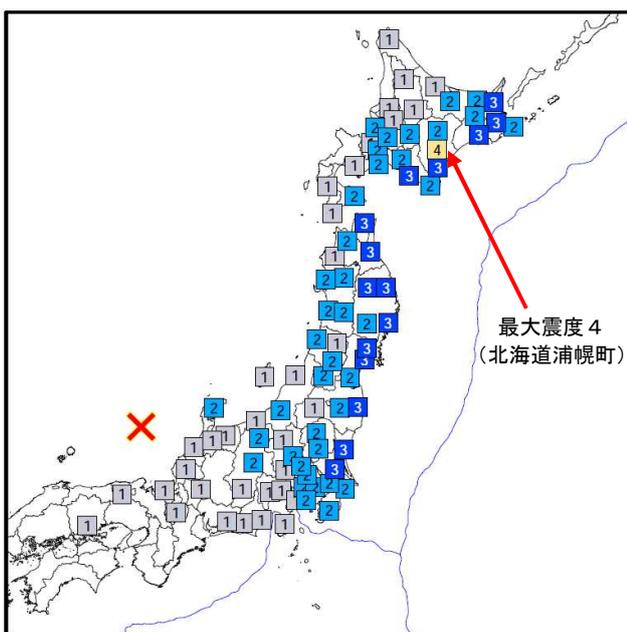


図1 異常震域模式図（断面図）



京都府沖の地震の震度分布図

(2007年7月16日 M 6.7 深さ374km)



日本海北部の地震の震度分布図

(2023年6月28日 M 6.3 深さ518km)

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）